

一般質問 葛西 吉弥（黎明）

本市財政について

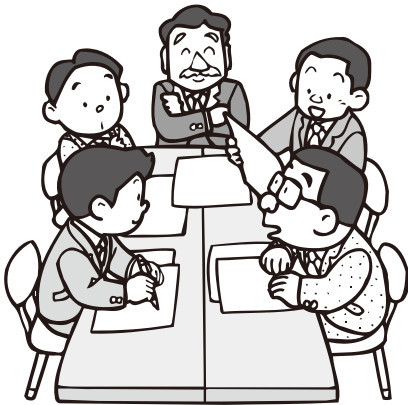
質問 人口の減少に伴い、歳入の減少は必定である。将来にわたる本市の財源確保の見通しは。

答弁 …… 総務部長

全国的に人口の減少が進んでいる中、本市においても、人口減少に歯止めがかかっていないのが現状です。

一般的に、人口が減少すると、市税収入や地方消費税交付金など、あらゆる歳入に影響を及ぼし、一般財源は減少していくものと認識しています。

人口の減少傾向は、今後も厳しい見通しとならざるを得ないものと考えていますが、行財政改革実施計画を着実に実行する中で、各種施策や事業の実施にあたり、常にコスト意識を持ち、経費の縮減に留意するなど、歳入・歳出両面にわたり創意工夫を凝らしつつ、将来的な財源見通しを把握しながら、あらゆる財源の確保に努めていきたいと考えています。



植條 敬介（新 政 会）

坂出市シティセールスについて

質問 シティセールスとは、効果的なPR媒体を利用した情報発信やイベント等の開催により、坂出市の認知度を高め、良好なイメージを確立することである。私は、坂出市をいかにセールスしていくかが、今後の市勢発展の大きな鍵になると感じている。

シティセールスを推進するために、市民の多くの意見を取り入れ、今年度からでも協議会を立ち上げ、指針を作っていくべきではないかと考えるが、市長の考えは。

答弁 …… 市長

本市に新たな活力を作り出し、魅力あるまちづくりをしていくためには、観光・ビジネス・歴史・文化などの各分野において、本市の魅力を市内外に効果的に情報発信するシティセールスの展開が求められています。そして、坂出市に「住みたい」「訪れたい」「ビジネスをしたい」と思わせる強い都市ブランド力を構築する必要があります。

そのためには、潜在的価値、歴史的価値、伝統美を大切にすることはもちろん、それらを顕在化させ、生活や心の中に息づかせ、そこから新しい資源を創ることが重要です。今後、さらに新たな地域資源を発掘すべく、官民共同で研究・発信し、地域経済の活性化に結び付けていきます。

ご提案のありました協議会の立ち上げや指針の作成は、シティセールスを推進していく上で有用であり、貴重なご意見として、今後、十分に調査・研究していきます。

藤川 亘（社会民主党議員会）

いじめ・不登校・児童虐待の実態について

質問 文部科学省の発表によると、平成20年度の不登校の児童生徒は、小学校が約712万人のうち0.32%の2万2652人、中学校が約360万人のうち2.9%の10万4153人である。不登校の児童生徒のうち、いじめによるものは、小学校が2.2%の498人、中学校が3.1%の3187人である。本市の状況は。

また、本市における児童虐待の認知件数と対応についても伺う。

答弁 …… 教育長

平成20年度の本市の小学校の総児童数は2589名で、そのうち不登校児童は2名でした。学業の不振、親子関係をめぐる問題等が原因であり、いじめによる不登校はありませんでした。

中学校については、総生徒数1264名のうち、不登校生徒は19名でした。親子関係をめぐる問題、クラブ活動への不応等が、不登校の原因の上位を占めており、いじめによる不登校が1件ありました。

児童虐待の認知件数については、平成21年度で52件となっています。本市では、児童虐待に早期に対応し、要保護児童の早期発見や適切な保護を図るため、坂出市要保護児童対策地域協議会を設立しており、進行管理会議や個別ケース検討会等を随時開催し、対応を行っています。

今後においても、関係機関の協力のもと、要保護児童対策地域協議会の活動の継続・強化を行い、児童虐待防止に努めていきます。